



2026年2月12日

各 位

会 社 名 株式会社ディジタルメディアプロフェッショナル  
代表者名 代表取締役会長兼社長CEO 山本 達夫  
(コード番号3652、東証グロース)  
問 合 せ 先 代表取締役専務 企画管理管掌 大澤 剛  
T E L 03-6454-0450

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2025年5月13日に公表いたしました2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ●業績予想の修正について

(1) 2026年3月期通期連結業績予想数値の修正（2025年4月1日～2026年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 3,250	百万円 20	百万円 25	百万円 20	円 銭 6.36
今回修正予想 (B)	2,500	△275	△260	△300	△95.38
増 減 額 (B-A)	△750	△295	△285	△320	
増 減 率 (%)	-23.1%	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2025年3月期)	3,077	265	271	157	49.96

(2) 修正の理由

第3四半期まで、特にパチスロ機の保通協等による検定試験の適合率が低調に推移したことにより、アミューズメント市場は一時的な調整局面にあり、その回復ペースは期初の想定を下回っています。そのため、同市場向け画像処理半導体「RS1」の量産出荷売上を計上するアミューズメント分野の売上高も、前年同期（2,779百万円）並みの期初想定に対して約3割減の着地となる見込みです。その結果、通期の売上高、営業利益、経常利益、および親会社株主に帰属する当期純利益は前回発表予想を下回る見込みとなりました。

しかし、第3四半期に入り、当社最終顧客の有力タイトルが複数適合となった（発売は第4四半期以降）こともあり、「RS1」の出荷は増加に転じており、この回復傾向は第4四半期も継続する見込みです。

第4四半期（1～3月）の業績は、「RS1」等の製品事業の増収や半導体IPの初期ライセンス獲得による売上高の増加に加え、次世代エッジAI半導体「Di1」の開発完了に伴う開発費剥落（販管費の構造的減少）により、黒字となる見込みです。

以上の通り、今期の連結業績は市場環境の一時的な影響を受けましたが、足元では収益構造の改善が進展しており、来期に向けた事業基盤は着実に強化されています。

(注) 上記の予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

以 上